



DEN

No.24

2019.8.26
発行

作業療法を伝える
NEWS&COMMUNICATION

公益社団法人 大分県作業療法協会 広報誌



伝和



心豊かに作業療法

CONTENTS - テーマ:生活行為向上マネジメント

- 1 教えて! 作業療法「生活行為向上マネジメントの流れ」
- 3 インタビュー「希望を生み出す作業療法」
● 藤田 マユミさん ● 小合瀬 健志さん
- 5 まんが作業療法物語
～ 生活行為向上マネジメント編 ～
- 10 支部活動紹介
- 11 第22回 大分県作業療法学会 報告
- 12 以心DEN心
- 13 活動報告



教えて! 作業療法

生活行為向上マネジメント

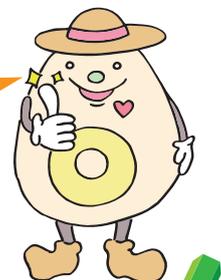
人はしたいことができるようになると元気になります。作業療法士は、対象者の24時間365日の生活スタイルをイメージしつつ、「したいこと」、「してみたいこと」など、本人にとって大切な生活行為を見つけて具体的な支援策を考えます。このとき、作業療法士の思考過程を示したものが、生活行為向上マネジメントです。今回はその中の目標設定までの思考過程を体験してみましょう。

…… 生活行為向上マネジメントの流れ ……

① 今のあなたが「したいこと」「してみたいこと」を整理しよう!

まず、これから何を目標に立てるかを考えていきます。生活場面で『興味があること・関心があること』は何か?当てはまるものを考えてみましょう。

体験してみよう♪
興味関心のあるものに○をしてみよう!



興味・関心事	○
掃除・整理整頓	
料理を作る	
買い物	
家族・親戚との団らん	
読書・音楽・映画	
ボランティア	

興味・関心事	○
習い事	
ラジオ体操・ウォーキング	
ゴルフ・水泳・テニスなどのスポーツ	
将棋・トランプ・テレビゲーム等	
ガーデニング・野菜作り	
旅行・温泉	

あなたの場合

できそうなものをひとつ選んでみよう!
いくつかあれば優先順位をつけよう!

したいこと! してみたいこと!

①

②

③

Aさんの場合(例)



孫に団子汁を
作って
あげたい!



60代女性

1年前に脳梗塞を発症し左半身の麻痺が残っている。家族の支えもあり、なんとか身のまわりのことができるようになったが、得意の料理を作ることが難しい。

※1: 生活行為… 人が生きていく上で営まれる生活全般の行為のこと。家事や余暇活動、趣味、仕事なども含まれる。

② 「したい! してみたい! できない。」の原因を探ろう!

したいことは見つかったものの、現状できていない原因は何でしょうか? また、今の自分の強みは何か探り、具体的な戦略を採るための材料を集めます。例をお手本にしながら原因を考えてみましょう!

..... **当てはまる項目はありますか?**

あなたの場合	Aさんの場合(例)
<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="text-align: center; background-color: #00AEEF; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">原因</div> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経験がない <input type="checkbox"/> 健康に不安がある <input type="checkbox"/> 周囲の手助けがない <input type="checkbox"/> 体力がない <input type="checkbox"/> その他() 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 体が上手く動かせない (左手に麻痺が残っており、両手で野菜を切ったり、鍋を運ぶことが難しい) <input checked="" type="checkbox"/> 交通手段がない (一人で外出できず、自由に買い物に行ったり、孫に会いに行くことが難しい) <input checked="" type="checkbox"/> 周囲の手助けがない (家族が忙しくて手助けを受けられない)
<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="text-align: center; background-color: #E91E63; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">強み</div> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 経験がある <input type="checkbox"/> 健康である <input type="checkbox"/> 周囲の手助けがある <input type="checkbox"/> 体力がある <input type="checkbox"/> その他() 	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 周囲の手助けがある (近所に友達がいる、以前から互いの家に遊びに行っていた) <input checked="" type="checkbox"/> 経験がある (主婦歴40年)



③ 具体的な目標を立てて、今日から行動しよう!

自分の『強み』をどのように活かして『いつまでに』何をするのか、という具体的な戦略を立て、目標達成のために実行していきます。

あなたの場合	Aさんの場合(例)
<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="text-align: center; background-color: #00AEEF; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">強み</div> <div style="text-align: center; background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">強みを活かして目標設定をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 か月後の目標 ● 3 か月後の目標 ● 今日からすること 	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="text-align: center; background-color: #00AEEF; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 40px; margin: 0 auto;">強み</div> <div style="text-align: center; background-color: #FFD700; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">強みを活かして目標設定をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 か月後の目標 近所の友達とお茶会を開く ● 3 か月後の目標 友達と一緒に昼食を作って食べる ● 今日からすること <ul style="list-style-type: none"> ・友達を誘う ・家族の見守りがある時に茶碗を洗う ・自分でお茶を入れる

作業療法士は、あなたがしたい生活行為をより細かく分析し、目標達成に向け支援します。



日本作業療法士協会のホームページには、より詳しい説明や事例報告が掲載されています。
 日本作業療法士協会ホームページ <http://www.jaot.or.jp/science/MTDLP.html>
 TOP 下段バナー「MTDLP(生活行為向上マネジメント)」

「希望を生み出す作業療法」



藤田 マユミ さん (写真左)

中学校の美術教員を定年退職後、ボランティアや公民館指導員、人権問題行使団に拝命されるなど多忙な日々を送られていた。その中で、脳梗塞を発症時に転倒し、頸椎損傷を受傷する。

現在もリハビリを継続しながら、絵画やボランティア活動を行う。今後は個展を開催する予定である。

小合瀬 健志 さん (写真右)

2009年 医療福祉専門学校 緑生館 卒業

2009年 人間総合科学大学

人間科学部 心身健康科学科 (通信教育課程) 卒業

2009年 湯布院厚生年金病院 入職

2014年 医療法人ライフサポート 明和記念病院 入職

Q1. 受傷したときの心境と、また絵を描きたいと思うようになった経緯を教えてください。

藤田さん

受傷当初は、体が動かず、顔さえ洗えずに「何で私が...」という思いが強かったです。そんなある日、病室から見えた海面から昇る朝日がとてもきれいで「私は生かされた」と実感したことを覚えています。

リハビリが開始となり、少しずつ手指が動くようになりました。塗り絵をしている患者さんを見ていたら、職員の方が12色の色鉛筆を渡してくれました。塗り絵は、枠からはみ出て上手に塗ることはできませんでしたが、絵を描けるようになりたいという気持ちが強くなりました。もともと美術の教師をしており、「いつか病室で見たあの朝日を描きたい」と思うようになりました。



Q2. 藤田さんの作業療法を開始したときの状況を教えてください。

小合瀬さん

基本的な日常生活動作は何とか一人でできるレベルで、自宅内は伝い歩き、夜間は歩行器を使用されていました。2階に上がることは困難な状況で、調理はヘルパーさんに野菜を切ってもらうなどの支援が必要な状態でした。

ケアマネジャーから「絵を描くリハビリはできますか?」と相談を受けました。藤田さんからも、最終目標は「絵を描くこと」と想いを聞くことができました。ただ、開始当初は、「絵を描きたい」という気持ちよりも「この手をどうにかしてほしい」という気持ちが強いようでした。「手指を動かす」という機能面に関わることも大切ですが、今持っている能力を活かしながら、なおかつ今ある能力で絵を描くことが、目標達成にはとても重要なことを繰り返し説明しました。そのときに活用したのが、生活行為向上マネジメントシートです。「絵を描く」という行為における現在の課題に対して、具体的にどのように取り組めばよいかを表にあらわしました。こうすることで、絵を描く活動自体も、手を動かす最大のリハビリになることや、目標に向かって段階を踏んでステップアップしていく流れを、藤田さんとしっかりと共有することができたと思います。



今回、脳梗塞発症時に転倒し中心性頸髄損傷を受傷しながらも、生活行為向上マネジメント[※]を活用した作業療法により、主体性のある生活を再獲得し、社会復帰を果たそうとしている藤田マユミさんと、通所リハビリテーションで作業療法を担当した小合瀬健志さんにお話をうかがいました。

※：P1「教えて！作業療法」参照



「手を動かす」リハビリの様子

Q3. 実際に絵を描いてみたときの気持ちを教えてください。

藤田さん

初めは細い筆が持てず、大きな刷毛を使って描きました。しかし、とても荒いタッチの作品となり、私は納得がいかず悔しかったです。周りの方が何とか励まして下さったおかげで、だんだん小さい筆でも描けるようになりました。また、使える道具も増やし、大きなキャンバスに向かう意欲も生まれました。周りの方々のおかげでなんとか個展までこぎつけました。



Q4. 支援する際、注意や工夫した点があれば教えてください。

小合瀬さん

開始当初は、作業療法中に涙を流されることもありました。きちんと成果を追っていくことを目的に、定期的に握力などの身体機能を測定し、機能改善していることを、その都度伝えていきました。また、日ごろの生活から自立に向けた活動を意識していただくため、ご本人だけでなく、ご家族やヘルパーさんなど、藤田さんの生活に関わる方々を巻き込んでいきました。藤田さんに、日常生活の中で自分でできることを考え実践する、言い換えれば自分自身をマネジメントするという考え方を身に付けていただくよう心がけました。

Q5. 絵を描くようになって生活やリハビリへの意識に変化がありましたか。

藤田さん

立った状態で絵を描いていたことで、30分くらい立って仕事ができるようになりました。そうすると歩くことに自信が付き、外出頻度も増えました。今はタクシーを使って一人で買い物にも出かけています。また最近では、花を植えたり、庭木を剪定したりと簡単な作業はできるようになりました。いろんなことにチャレンジしてみることで、「思わぬところでできることが増えている」と感じています。私が描いた絵を県の美術展に出展できたときは、本当にうれしかったです。まだ作品としては未熟ですが、自分でできることはやってみようという前向きな気持ちになりました。

小合瀬さん

当初は、調理をヘルパーさんに手伝ってもらっていましたが、野菜を切ったり、食器を洗うなど、少しずつできることが増えています。外出できるようになってからは、ボランティア活動にも参加されるようになりました。目標であった自分でできることを見つけ実践する、まさしくマネジメントする力がついたのだと思います。

Q6. 今後の目標を教えてください。

藤田さん

まだ手足指の麻痺が続き、不自由な事ばかりです。しかし、だからといって甘やかすことなく常に健常者と同じレベルを目指してリハビリを続けます。

もう一つはこの病気は再発する例が多いので、せめて再発する前に今まで作成し続けてきた絵画や彫刻を発表したいと思っています。幸いに令和元年10月1日から10月6日までアートプラザでの会場をキープすることにしました。



美術展にて 藤田さんの作品「希望」(写真上)

まんが 作業療法物語

生活行為向上マネジメント編



Aさんは、70歳の明るく活発な女性です。
中学校の美術教師をしていましたが10年前に定年退職しました。
退職後も趣味として彫刻や絵画を楽しんで過ごしていました。

※中心性頸髄損傷とは、転倒や交通事故などで首を過度に伸展すること（頭を後ろへ大きく反る状態）で受傷することが多く高齢者に起こりやすい障害です。不完全麻痺（感覚、運動機能などが部分的に障害される麻痺）であり、下半身よりも上半身の運動麻痺が強く、特に手指の細かい動きが困難となることが特徴です。（参考文献：標準理学療法学・作業療法学・整形外科学）

ある日の朝…



意識消失し、倒れたAさんは首に強い衝撃を受けました。
救急搬送され、検査の結果、*中心性頸髄損傷の診断を受けました。

ピーポーピーポー



Aさんは首から下を自由に動かすことができず、
生活のすべてに介助が必要な寝たきりの状態となりました。



どうして、私が
こんな目に
会わなきゃいけないの？

Aさんは、
体を動かすことのできない絶望感から、
毎日病室で泣いていました。

その後、Aさんの状態が落ち着いたため、リハビリ専門の病院へ転院し、
身の回りのことを自分でできるようにリハビリに励みました。



6ヶ月が経過し、入浴以外は一人で行うことができるようになった A さんは、退院することになりました。

自宅で自立した生活をするには引き続きリハビリを継続していく必要があるため、通所リハビリテーションを利用することになりました。

利用開始に伴いサービス担当者会議が開かれることとなりました。

通所リハビリの利用を希望されている A さんです

作業療法士の大分療太です
よろしくお願いします

A さん
今の生活の中で
どんな目標をお持ちですか？
何かできるように
なりたいなど目標はありますか？

手のしびれが和らいで、もっと
手が動くようになりたいです
あともっと早く
歩けるようになりたいわ

身体が動くようになれば、
また何でも
できると思うんです

なるほど
では、身体が動くように
なったら、何がしたいかも、
今からいっしょに
考えていきましょうね

リハビリにとても
一生懸命な方ですね

「手や足が動きづらい」という
できないことに目が向きすぎて、
できることが見落とされているのが
やや気になります

A さんの仕事や
趣味についての
情報はありますか？

はい
A さんは、中学校の美術の先生を
されていました
定年退職後も趣味として
彫刻や絵画をされていたそうです
しかし、今の手の状態では
ペンも握れないと嘆いていました

なるほど
そうなんですね
絵画の経験を
上手いさせる
アプローチを
考えてみましょう

こうして、A さんは通所リハビリテーションの
利用を開始しました。



Aさんこんにちは
リハビリがんばって
いますね

もちろんよ
早く元の生活に
戻れるように
がんばらないとね



そうだ、Aさん
Aさんの好きなことは
何ですか？

私は美術の教師を
していたから、
絵を描くことは好きなの



入院中にみた朝日を
描きたいなって思うんだけど、
今のこの手じゃ描けないわ



そうなんです
ではAさん、
今どれくらい手が動くのか、
少し見せてもらっていいですか？



ええ、
いいわよ

療太はAさんの両手の握力や、腕の筋力、
肩や肘がどのくらい動くのか評価しました。



翌日……



Aさん
今日はいつもの訓練に、
これを使ってみたいと思います

刷毛と
絵の具？

今のAさんの
握力や指の力では
まだ普通の筆を
握ることはできません

だけど、刷毛のように
柄の部分が大きいものであれば、
しっかりと持てますので、
ダイナミックに色を
塗ってみたいと思います



全然思ったようには
描けなかったけど、
すごく楽しかったわ

今は思うように描けない
かもしれませんが、
このように実際に
絵を描くことで指や腕、
体幹の筋力も効率良く
鍛えていくことができます

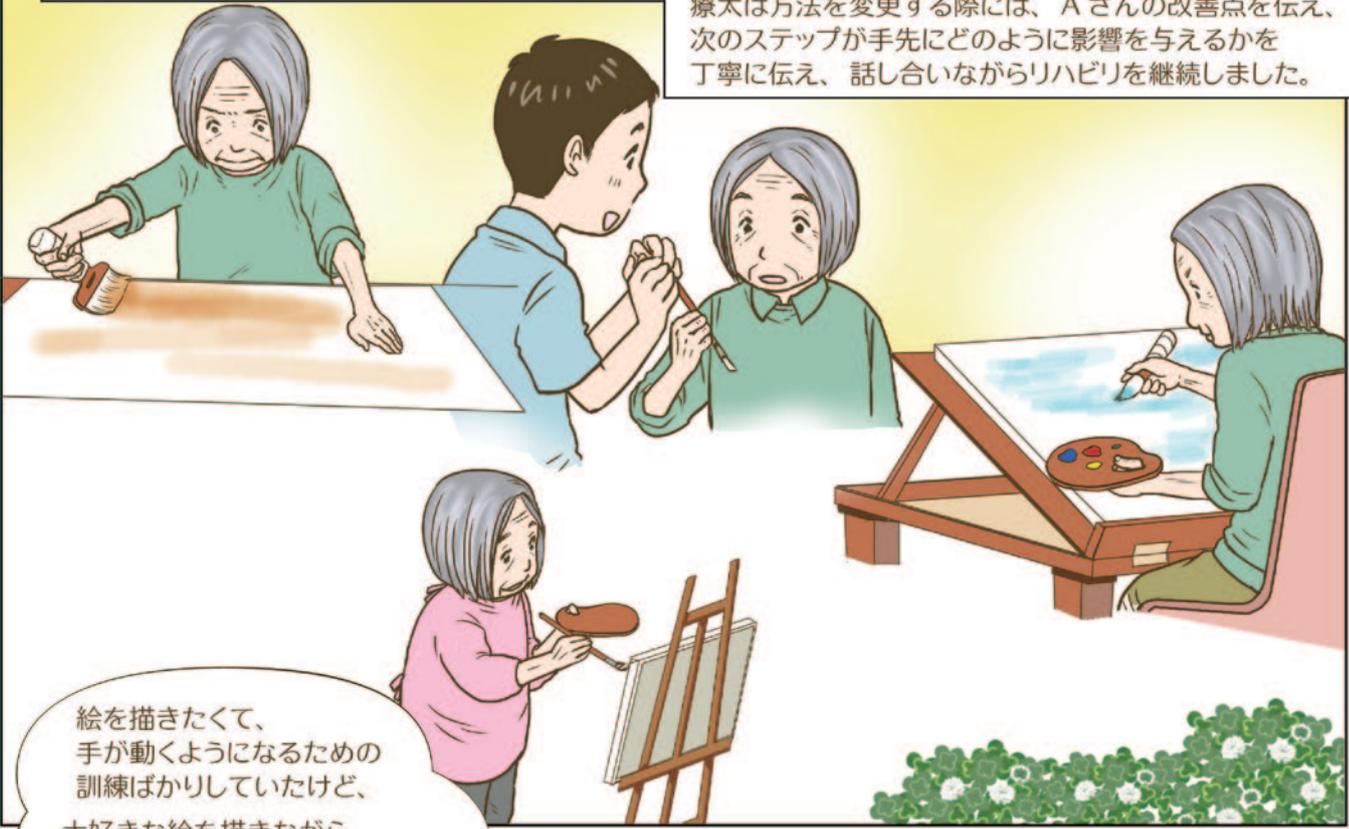


もちろん、好きなことをしているので楽しくリハビリができます
続けてチャレンジしてみませんか

ええ、お願いします

Aさんの身体機能は徐々に回復し、それに合わせて使用する道具や絵を描く方法を変更していきました。

療太は方法を変更する際には、Aさんの改善点を伝え、次のステップが手先にどのように影響を与えるかを丁寧に伝え、話し合いながらリハビリを続けました。



絵を描きたくて、手が動くようになるための訓練ばかりしていたけど、大好きな絵を描きながら、手や体の動きの訓練ができるなんて、すごくうれしいわ



Aさん私もすごくうれしいです
でもここからがスタートですよ
生活場面でも工夫して、自分ができることを増やしていくと、より人生が豊かになりますよ

Aさんの絵はどんどん上達し、身体機能も大幅な改善がみられました。



絵を描き始めてから一年後、
Aさんの絵が美術展に出展されることになりました。



Aさん、
とても素晴らしい
絵画ですね

色の使い方が
上手ですね

ありがとう
でもまだまだ
上手に描けるように
がんばるわ

その後、Aさんは通所リハビリを卒業しました。
しかし、定期的の診察時はリハビリ室に顔を出してくれます。



新しい絵ができたから
良かったら
飾ってちょうだい

ありがとうございます
見てもいいですか？

これは、
確かずっと
描きたかった…

そうよ
だいぶんあの時病室から見た
朝日のイメージに近づいてきたわ

実は以前勤めていた中学校から、
依頼があって生徒の悩み相談の
ボランティアをすることにしたの



それはすごいですね
でも無理しすぎないで
くださいね

Aさんは、どんどん活動の幅を広げ、
現在も更なる目標に向かって努力を続けています。

人はそれぞれ違った人生を歩んでおり、その人にとって大事な作業（生活行為）は異なります。

作業療法士は今まで行ってきた仕事や趣味活動などに着目したり、したいこと、できるようにになりたいことを直接聞き取りしながら、その方が最も必要としている作業（生活行為）の実現に向けサポートします。



支部活動紹介

大分県作業療法協会は、県内を9支部に分け、それぞれの支部で事例検討会等を行ったり、地域のイベント等に参加し、作業療法体験や相談会を行っています。
今回は、南部支部と北部支部の活動を紹介します。

南部支部

支部活動報告

南部支部は佐伯市と津久見市を併せた地域で、所属施設は17施設、支部員数は69名(平成30年9月1日)になり、年々、増加傾向にあります。支部構成員は支部長に加えて、佐伯市と津久見市に副支部長を各1名づつ配置しております。



支部活動としては、支部連絡交流会、新人歓迎会、作業療法ミニフェスタ、事例検討会・支部研修会を実施。昨年の新人歓迎会は佐伯市の居酒屋で行い、和やかなムードで佐伯市議会議員の参加もありました。作業療法ミニフェスタはOTの広報活動として毎年、さいき交通安全フェスタに出展しています。地元のスタッフも多く認知度も徐々に高まっている様です。支部研修会のテーマは、事例検討会のアンケートや新人歓迎会で支部員の要望に沿った内容を実施しており、昨年は『通いの場』についての研修会を実施しております。



南部支部は行政との関わりが多く、介護認定審査員の参加に加えて、地域リハ活動として地域ケア会議や介護予防事業等へのリハ職派遣など地域リハ活動支援事業に地域リハビリテーション支援センターと協力し積極的に関わっております。



北部支部

支部活動報告

北部支部は中津市と宇佐・高田市の会員在中事業所を合わせた合併支部です。2017年度の加入事業所は34事業所で、旧中津支部に至っては福岡県と県境にあるため京築支部とも連携が求められる事があります。



支部構成は担当理事、支部長と中津市に副支部長3名、宇佐・高田市に副支部長2名を配置しており、他と比較すると役員協力が充実しているのが特徴です。また積極的な会員が多く、事例検討会と懇親会以外に北部支部単独研修も設けています。昨年度の研修ではブランディング研修、その前年は多職種広域研修を行っています。こういった独自の取り組みは、会員の声を活用し、マーケットや制度の変化、ブランド力、求められる職種像、資質等を学び有用性や関係性を高めることが目的です。



北部支部の普及啓発活動としては、高田市のこどもフェスタに出店しています。その他、中津市・宇佐市の地域ケア会議アドバイザーや介護認定審査会審査員にも選出しています。

協力的で積極的会員方が多く、そういった方々に助けられながら「顔の見える関係づくり」をスローガンに掲げ、発展してきたのが北部支部です。



第22回 大分県作業療法学会

テーマ「作業療法-道-」～つながる業(わざ)、そして新たなる挑戦(わざ)～

開催日時：平成31年1月20日(日) 9:50～17:00

開催場所：J:COMホルトホール大分

学 会 長：平野 政治

内 容：①特別講演：「作業療法の挑戦～過去・現在・未来～」

講 師：太田 陸美 氏
(一社)日本作業療法士協会 監事 /
(一財)竹田健康財団 介護福祉本部長代理

特別講演：「大分県作業療法協会の挑戦」

講 師：高森 聖人
(公社)大分県作業療法協会 会長 /
(株)空色 取締役副社長

②特別企画：「挑戦！未来を見据えて～行政職員として～」

講 師：國政 和子 氏 日田市役所

③トピックス：「高まる作業療法士への期待～発達支援のいま～」

講 師：永松 謙一 博愛こども成育医療センター

④演題発表：一般演題(18演題)

⑤学会長賞表彰式

学会長賞：吉良 志保 氏 (地域生活サポートケアセンターけいわ)
「自立訓練(機能訓練)における家庭復帰への取り組み」

吉田 梓沙 (別府リハビリテーションセンター)
「MTDLPを用いて目標の明確化と不安の軽減に
繋がった症例～訓練・病棟生活での模擬就労の提供～」

日隈 武治 (大分リハビリテーション専門学校)
「本校の障がい者スポーツへの取り組み紹介」

⑥機器展示プレゼンテーション：参加企業4社

参加者数：176名(内：県士会会員155名、非会員1名、他職種2名、学生19名)

今回で第22回目を迎えた本学会では、特別講演に太田陸美氏をお招きし、ご講演いただきました。物事が常に移り変わり作業療法があらゆる分野、形で求められるようになる中で、「原点に立ち返り」作業に焦点を当てた作業療法を行うことの必要性をご教授いただきました。それに答える形で「大分県作業療法協会の挑戦」として大分県作業療法協会会長 高森聖人氏からは、大分県作業療法協会の取り組みや課題についてご講演いただきました。また、特別企画では國政和子氏、トピックスでは永松謙一氏と多方面で活躍されている作業療法士の講演がありました。市役所で作業療法士として働く國政氏には、作業療法士が医療職という固定概念に捉われず、地域が必要とする場所で働くべきだという作業療法の未来について熱く語っていただきました。永松氏からは母子保健事業の作業療法士派遣の実態報告があり、発達支援において作業療法協会へ様々な支援依頼が届いている中で、一人でも多くの作業療法士に関わってほしいというお話がありました。一般演題発表では各症例報告・活動報告に対し、積極的な意見交換が行われており、発表者も聴講者も充実した勉強ができていた様子でした。今回は3名の方が学会長賞に選ばれました。



特別講演



特別企画



学会長賞授与式

学会長より

「作業療法・道～つながる業(わざ)、そして新たなる挑戦(わざ)～」をテーマに掲げ、特別講演、特別企画、トピックス、一般演題18題の内容で、作業療法の過去から現在(私たちの足元)までを見つめ直し、さらには私たちが新たな作業療法の将来・未来を築いてく、挑戦する気概を抱く学会になったと確信しています。平成最後の学会を盛大に終えることができました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝しております。誠に有難うございました。

第22回 大分県作業療法学会
学会長 平野 政治

「草むしりする日」

豊肥支部 副支部長 中村 雅之 (ニコニコ銘水苑)



子どもの頃から庭の草むしりがとにかく嫌いで、母親に草むしりを言い渡されるたび草の上っ面だけをちぎっては母にゲンコツをもらっていました。そんな鉄拳を持つ母も10年前にガンで他界しました。入院し余命1か月の頃の話です。骨転移で痛みが強かったので家族は心配で入院を望みましたが、母はどうしても家に帰ると聞かず痛み止めを打ちながら自宅で生活することになりました。仕事を休んでしばらく実家にいた私は、よっぽど家でやりたいことがあるんだろうと、思っていました。夏の盛り、おもむろに庭で草むしりを始めた母に「せっかく家に帰ったんだけん、わざわざこんなことせんでいいたい」と隣で草をブツリブツリちぎる私。「誰が来るかわからんけんキレイにしとかなんでしょ」と作業を続ける母。幼い頃から父のいなかった我が家では、子を養い、家を守る役割全ては母が担っていました。そんな母が最期にやりたかった作業は、家の片付けと子どもにご飯を作るという、これまでずっと繰り返された日常の営みでした。

私たち作業療法士は、人を「作業的存在」と捉えます。人は何かしらの活動(作業)をせずにはいられず、作業がその人をかたちづくり、作業をすることで、人・時間・場所とのつながりが生まれます。母にとって草むしりや自宅での日常そのものが、役割を実感する大切な作業だったのだと思います。私が介護老人保健施設に勤務して20年になろうとしています。作業活動を通じて元気になりご自宅に帰る高齢者の方もいれば、心身の機能低下から自発的な活動が難しく施設で最期を迎える方もいらっしゃいます。障害を負うことでできなくなっていることは、可視的で分かり易いのですが、目に見えてこない、自分らしい作業ができないこと、役割を果たせないことの苦しみや悲しみはあまり気付かれないのではと感じます。利用者の方の話に耳を傾けること、目と目を合わせ微笑むことが「いい一日だった」という思いにつながるよう心がけながらの日々です。私の子どもも小学生になり、保護者総出で学校の草むしり作業。赤い小さなカマを買いました。

作業療法一日体験

開催日：平成30年7月1日(日)～8月31日(金)
 場 所：会員所属施設(75施設)
 対 象：県内高校生
 内 容：作業療法の見学、作業療法体験など
 体験者：29校 250名

子どもを評価するための基礎知識の整理①**～身体・運動面の発達～**

開催日：平成30年7月8日(日) 9:30～15:00
 場 所：大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科棟
 内 容：0歳～7歳までの粗大運動の発達について
 講 師：後藤 英子(常務理事/大分リハビリテーション専門学校)
 参加者：46名(会員45名、他職種1名)

現職者共通研修Ⅱ

開催日：平成30年7月10日(火) 19:30～21:00
 場 所：別府市南部地区公民館 大会議室
 内 容：作業療法における協業・後輩育成
 講 師：後藤 宏子(加藤病院)
 参加者：28名

認知症アップデート研修会(基礎編)

開催日：平成30年7月22日(日) 9:30～14:30
 場 所：J:COMホルトホール大分 409会議室
 内 容：①認知症の人を取り巻く現状と課題
 講師：甲斐 裕介(藤華医療技術専門学校)
 ②認知症の障害の本質と認知症原因疾患への理解
 講師：七朗丸 恵(コスモス病院)
 ③行動心理症状の原因背景および障害構造の理解
 講師：佐藤 友美(常務理事/湯布院病院)
 ④認知症作業療法におけるアセスメントとマネジメント
 講師：真田 康孝(コスモス病院)
 参加者：26名(会員22名、他職種4名)

現職者共通研修Ⅲ

開催日：平成30年7月24日(火) 19:30～21:00
 場 所：別府市南部地区公民館 大会議室
 内 容：職業倫理
 講 師：浅倉 秀剛(大分中村病院)
 参加者：37名

現職者共通研修Ⅳ

開催日：平成30年8月7日(火) 19:30～21:00
 場 所：J:COMホルトホール大分 303会議室
 内 容：保健・医療・福祉と地域支援
 講 師：田中 学(井野辺院内クリニック)
 参加者：34名

子どもを評価するための基礎知識の整理②**～認知・心理面の発達～**

開催日：平成30年8月19日(日) 9:30～12:30
 場 所：コンパルホール 304会議室
 内 容：認知・心理面の発達とADL
 講 師：兒玉 敬祐(恵の聖母の家)
 参加者：54名(会員52名、他職種1名、学生1名)

子どもを評価するための基礎知識の整理③**～社会性の発達～**

開催日：平成30年8月19日(日) 13:30～15:30
 場 所：コンパルホール 304会議室
 内 容：生活習慣と情緒社会性における発達とアセスメントのポイント
 環境(親子関係・園活動)のアセスメントのポイント
 講 師：浅倉 恵子(理事/どんぐりの杜クリニック)
 参加者：53名(会員51名、他職種1名、学生1名)

現職者共通研修Ⅴ

開催日：平成30年8月21日(火) 19:30～21:00
 場 所：コンパルホール 304会議室
 内 容：実践のための作業療法研究
 講 師：彌田 剛(藤華医療技術専門学校)
 参加者：33名

現職者選択研修**生活行為向上マネジメント基礎研修**

開催日：平成30年9月1日(土) 9:30～17:00
 場 所：大分銀行ドーム 会議室
 内 容：MTDLPの講義、演習、グループディスカッション、
 現場での活かし方
 講 師：佐藤 友美(常務理事/湯布院病院)、大田 繁(湯布院病院)
 ファシリテーター：大塚 悠貴(黒木記念病院)
 村上 義樹(ほしの整形外科クリニック)
 濱砂 彰吾(川嵐整形外科病院)
 山本 貴美(湯布院病院)
 姫野 鈴加(津久見中央病院)
 参加者：32名

現職者共通研修Ⅵ

開催日：平成30年9月4日(火) 19:30～21:00
 場 所：コンパルホール 304会議室
 内 容：作業療法の可能性
 講 師：國政 和子(日田市役所)
 参加者：38名

「リレー・フォー・ライフ大分2018」への参加

開催日：平成30年9月8日(土) 10:30～9日(日) 11:00
 場 所：大分スポーツ公園広場 大芝生広場
 内 容：健康増進普及活動、リハビリテーション相談
 参加者：26名(会員23名、会員家族3名)

人材育成道場 地域ケア会議助言者編

開催日：平成30年9月14日(金) 10:00～15:00
 場 所：宇佐市勤労者総合福祉センターさんさん館
 内 容：①地域ケア会議において作業療法士が果たす役割
 講師：村田 健太(湯布院病院)
 ②グループディスカッション
 講師：佐藤 暁(常務理事 井野辺病院)
 参加者：7名

現職者共通研修Ⅶ

開催日：平成30年10月2日(火) 19:30～21:00
 場 所：コンパルホール 304会議室
 内 容：事例報告と事例研究
 講 師：矢野 高正(大分リハビリテーション専門学校)
 参加者：47名

発達支援事業における評価の実際

開催日：平成30年10月21日(日) 10:00~15:00
場 所：大分リハビリテーション専門学校
内 容：NK(永松)式簡易スケールを用いた事例評価
講 師：永松 謙一(博愛病院)
参加者：43名

現職者共通研修Ⅷ

開催日：平成30年10月23日(火) 19:30~21:00
場 所：コンパルホール 305会議室
内 容：日本と世界の作業療法の動向
講 師：高森 聖人(会長/株式会社空色)
参加者：43名

生活行為向上マネジメント事例検討会

事例検討会 I

開催日：平成30年11月17日(土) 13:30~16:15
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：事例検討会、MTDLPの活用と通所リハとの連携方法
ファシリテーター：佐藤 友美(常務理事/湯布院病院)
大田 繁(湯布院病院)
山本 貴美(湯布院病院)
真田 康孝(コスモス病院)
コーディネーター：小合瀬 健志(明和記念病院)
参加者：14名

現職者共通研修Ⅸ

開催日：平成30年11月20日(火) 19:30~21:00
場 所：大分県作業療法協会ビル
内 容：事例検討、事例報告
参加者：48名

児童発達支援制度の概要

開催日：平成30年11月22日(木) 19:00~21:00
場 所：J:COMホルトホール大分 409会議室
内 容：制度及び事業の概要と用語の解説、
地域での発達支援に係る作業療法士の役割
講 師：高森 聖人(会長/株式会社空色)
参加者：46名

認知症アップデート研修会(応用編)

開催日：平成30年12月2日(日) 9:30~11:30
場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス 大会議室
内 容：認知症の方への支援
～アセスメントと支援の方略を学ぶ～
講 師：甲斐 裕介(藤華医療技術専門学校)
真田 康孝(コスモス病院)
参加者：12名(会員11名、他職種1名)

身体障害領域研修

開催日：平成30年12月9日(日) 9:30~17:00
場 所：大分銀行ドーム B2-204
内 容：①急性期、回復期の作業療法(基礎)
講師：鳥越 克志(藤華医療技術専門学校)
②作業療法士の役割(チームアプローチ)
講師：松本 菜穂(フロンティア大分営業所)
③作業療法の役割と実践(就労支援)
講師：浅倉 恵子(理事/どんぐりの杜クリニック)
④生活期の作業療法(終活について)
講師：入口 晴香(デイサービスセンター楽)
参加者：52名

制度対策研修会

開催日：平成30年12月12日(水) 19:00~21:00
場 所：コンパルホール 304号室
内 容：報酬制度改定後の取り組みに関するシンポジウム
コーディネーター：佐藤 暁(常務理事/井野辺病院)
シンポジスト：山本 貴美(湯布院病院)
小合瀬 健志(明和記念病院)
山田 帆真麗(大分下郡病院)
参加者：39名





第23回 大分県作業療法学会

学会長 佐藤 暁 (常務理事/井野辺病院)

変化

新時代を彩る
作業療法

学会テーマ

会期 **2020年1月19日**

会場 **J:COM ホルトホール大分 大会議室 他**

特別講演 「作業療法はどこへ向かうべきか」

〈講師〉有村正弘氏 (株式会社OT-Road 代表取締役)

岩根達郎氏 (京都府立洛南病院 リハビリテーションセンター長)

一般演題募集 **20~25演題** ※演題募集要項は裏面をご確認ください

新企画!フレッシュマンセッション

5~10演題 ※詳細は裏面をご覧ください

本学会は、研究報告に限らず、様々なテーマでのご応募をお待ちしております。
なお、優秀演題は表彰いたします。



お問い合わせ先

(公社)大分県作業療法協会

大分市西春日町3-2
TEL: 097-547-8662 FAX: 097-547-8663
<http://www.oita-ot.com/>

Facebookは
こちらから



リハビリテーションのことや、作業療法
のことで分からなかったり、お困りのこ
とがありましたら、右記までご連絡くだ
さい。

公益社団法人 大分県作業療法協会

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2 大分県作業療法協会ビル

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

<http://www.oita-ot.com>